

北海道旭川市立 春光台中学校

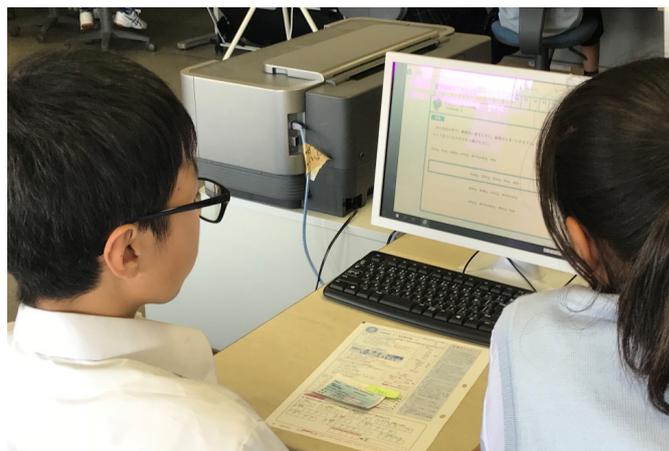


ドリルを使った個に応じた学び

～学校全体でeライブラリを活用するための工夫～

春光台中学校ではeライブラリのドリル、プリント、家庭学習機能といった様々な機能を活用しています。今回は授業内での活用と家庭学習の周知方法をご紹介します。

eライブラリのドリルを使って学カテスト対策

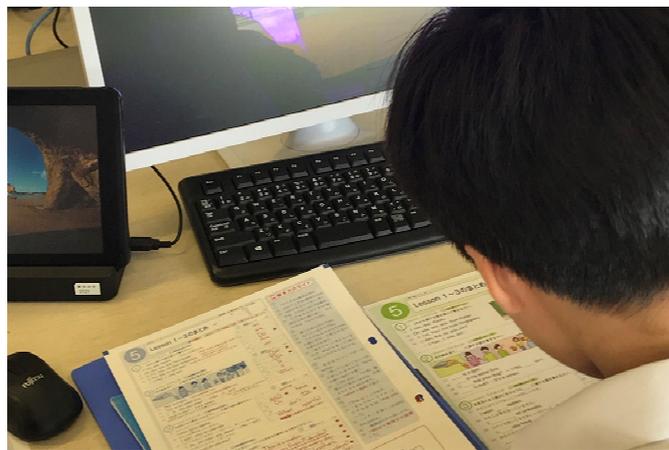


英語 1年：初めての英語科学カテストに向けてドリルで復習

この日は明日に控えた学カテスト対策としてeライブラリのドリルを使い、これまでに学習した単元を復習しました。

生徒自身が自分にあった難易度を選択し、英語が得意な生徒は黙々とドリルを解き、苦手な生徒は隣の生徒と相談したり、門田先生に質問をしたりと生徒全員が自分自身の理解度にあった難易度、方法でドリルを解いていました。

ドリルを使ったスムーズで効率的な学習をするための工夫



POINT!

機器の起動時間も宿題の丸付けをして有効活用

門田先生の授業では必ず発生するパソコンの起動時間も、宿題プリントの丸付けを行うことで、生徒が手持ち無沙汰とならないような工夫がされています。

その他にも、門田先生の授業では、自作のeライブラリの説明資料を配布されたり、生徒がパスワードを忘れた時のためにパスワード一覧表を用意されたりと、生徒がスムーズに効率よく学習できる様々な工夫が行われています。

インタビュー eライブラリのドリルと個に合わせた学習

基本的にプリントは中位の難易度で作成されており、低位の生徒には難しく、高位の生徒には易しいものとなってしまうがちです。しかし、eライブラリのドリルならば、生徒個人にあった難易度の学習が可能です。そのため、**プリントでは実現が難しい個に合わせた学習を行える点**がeライブラリの利点だと考えています。

また、前年度担任であった3年生では**高校入試過去問も他都府県の問題が活用できるので、高位の生徒の知的好奇心を高めるのに有効的**でした。

英語科
門田 純 先生

eライブラリを活用した家庭学習

eライブラリアドバンス 家庭学習サービスについて

先日、全校生徒に右にある個人IDカードを配布いたしました。インターネットに接続したパソコン、スマホ、タブレットPCがあれば、いつでもどこでも無料でドリル学習ができるという「eライブラリ・アドバンス」の活用について再度お知らせいたします。コンテンツの中には過去の入試問題などもあり、家庭学習教材の一つとしてご利用いただければと思います。

アドレス	https://katei.kodomo.ne.jp
学校コード (※必ず入力)	
ID	
パスワード	
学年	中学1年生
名前	

検索エンジンで「eライブラリアドバンス」と入力するか

<https://katei.kodomo.ne.jp>

をアドレスバーに直接入力すると、eライブラリのログインページへいけます。IDカードに記載されている「学校コード」「ID」「パスワード」を入力します。マイページから、ドリル学習や調べ学習ができます。

春光台中学校ではeライブラリの家庭学習機能を利用してしています。

活用にあたって、千葉校長先生の「継続的な発信、啓蒙が重要」との考えに則り、技術科の時間でeライブラリの操作方法を伝える、学校通信等の配布文書で家庭学習を定期的に周知するといった様々な方法で生徒が家庭でもeライブラリをスムーズに使える工夫を行っています。

▲ 学校通信に掲載された家庭学習の項目

eライブラリ活用のねらい

- プリントでは実現が難しい個の理解度に応じた学びを実現する。
- 家庭学習機能を活用し、不登校生徒の学びを支援する。
- eライブラリ内のプリントを活用し、先生のプリント作成時間を短縮する。
- ドリルを活用し、突発的な自習時の教材準備時間を軽減する。

先生の工夫

- 授業で活用する際には、入念な準備を行っている。
- 機器の起動時間中にプリントの丸付けをするなど、生徒が手持ち無沙汰な時間をなくす。
- 生徒にeライブラリの操作方法を周知する機会を作る。
- 家庭学習の周知を配布文書で定期的に行う。

生徒の様子

- 生徒自身でドリルの難易度を選択し、進めていた。
- 自分だけで解けない問題はクラスメイトや先生に質問し、理解したうえで次の問題に取り組んでいた。
- eライブラリの操作方法を全員理解していた。

インタビュー eライブラリの活用効果と周知方法

本校では、eライブラリを校内、家庭問わず、積極的に活用しています。

活用効果としては、**eライブラリのプリントを活用することで、先生が宿題プリントを作成する必要がなくなった、突発的な自習対応もeライブラリを活用することで教材準備の負担が減った**、また、昨年度は**家庭学習機能が不登校生徒の高校進学の手助けとなった**といったような効果が出ています。

私はeライブラリを積極的に先生・生徒・保護者に使って頂くためには「継続的な啓蒙」が必要となると考えています。私自身も先生方へは校長通信でeライブラリの情報を発信する、突発的な自習の際には「eライブラリを使うといいよ」と声掛けを行うなど「継続的な啓蒙」を行っています。



校長
千葉 雅樹 先生